「隣人愛を実践して」

ルカ 10:25～37

2016.08.28　HKJCF

概観

聖書は慈しみや善行をどう教えているのか？教会としてどのようにこの教えを実践すべきか？「良きサマリヤ人」のたとえ話から、一緒に学んでいきたい。

アウトライン

1. あわれみの必要：永遠の命　V28
2. あわれみの範囲：すべての隣人　V36
3. あわれみの動機：恵みの体験　V37
4. 適用

1. あわれみの必要：永遠の命　V28

1）神様を愛する：**全人格的な表現**　（申命記6:5）　①心　②精神　③力（動機、感情、思想、全精神、全存在、全生涯）。

2）隣人を愛する：**行動をもって表現**　（レビ記19:18）　神様からの愛が基礎にあり、神様への愛の延長線上にあるべき。

3）永遠の命：第一と第二の戒めを実行できている時、命が与えられる。十字架の必要性、**恵み**を理解する。**自己義認**をあきらめる。主の恵みをただ受けて、分かち合うだけ。

2. あわれみの範囲：すべての隣人　V36

1）人間の不完全さ：全員**瀕死状態**。霊、心、肉の回復＝**シャローム**が大事。「*かわいそうに思い*」：憐れむ心が大事（V33）。

2）愛の奉仕の費用：オリーブ油、ぶどう酒、包帯、家畜、お金、時間。**召命**と**奉仕機会**を大事に。**資源**を上手に管理するように。

3）隣人愛の積極性：隣人はだれのこと（V29）→隣人になった（V36）。倒れている人→サマリヤ人。発想の転換。**対象**に制限されず、**自主的**に範囲と関わり方を決めていく。

3. あわれみの動機：恵みの体験　V37

1）奉仕の共存：**御言葉**の奉仕と**愛**の奉仕は**共存**すべき；両方大事。バランスを考える。

2）信仰の成長：行動が伴う信仰（ヤコブ2:14-17）。生きた信仰は**行い**が必要。

3）恵みの拡大：「*同じようにしなさい*」：恵みを**分かち合う**こと。祭司やレビ人に習わないで、**律法**に縛られず、恵みに生きる。

4）御国の前進：自己犠牲の奉仕は**感動**を与える。シャロームの実現。「*行って*」：隣人がイエス様に出会うように（マタイ28:19-20）。

4. 適用

①イエス様を模範とする　（ルカ24:19）
行いにも、言葉にも、力のある生活。

②御国の前進とシャロームを目的とする
愛と義が前進するように。自立と責任感。

③家庭→地域教会→コミュニティ→政府
4つの恵みのチャンネルを用いる。
静まって、観察して、耳を傾けていく。